



**EXPO  
2025**  
OSAKA, KANSAI, JAPAN

# 第 1 回有識者懇話会の 主な意見と検討のポイント

大阪府 政策企画部 万博協力室  
大阪市 経済戦略局 国際博覧会推進室



# 第1回の意見を踏まえた検討のポイント

【事務局の考え方】

## 委員等からの主な意見（1）

## ■ 大阪らしさ

- 出展をめざすパビリオンについて、「大阪」のパビリオンなのか、「関西」のパビリオンなのか、はっきりさせて議論をした方がよい。「大阪」と「関西」とでは、違うフェーズの話になるので、きっちり整理して議論した方がよい。
- 政府館やテーマ館、各国のパビリオンがある中で、「大阪ならでは」と抜いてしまうと、話が狭隘化してしまい、非常にローカルなところに行きついてしまう。例えば、IT技術で面白いものを見せたとき、それは「大阪らしさ」なのか。そのような問題をどのように解決するのかといった点が、重要なポイント。
- パビリオンを出た後に、大阪の方に「大阪に生まれて良かった」とか、国内外の方に「大阪に住んでみたい」と思わせるようなことが、大阪らしく大阪府（市）が出すパビリオンとしていいのではないか。
- 大阪の宝は人。コミュニケーション能力も高く、これらは売り出せる武器になる。その辺りを何か発信する企画であったり、コンテンツを用意できればいいのではないか。
- 「なんでやねん」や「もったいない」といったような、大阪らしいスローガンが必要ではないか。
- 「おせっかい」「三方良し」「やってみなはれ」等々の、大阪から発することができる価値観を、大阪館で展開できればいいのではないか。
- 欲張らず、例えばグルメだけ、音楽だけなどに絞り、個人や中小企業も含め知恵を絞り一丸となれば、大阪・関西らしさを発揮できるのではないか。大阪だけでなく関西としての表現の場所になればいい。

## 整理・検討が必要なポイント

- 出展をめざすのは「大阪パビリオン」なのか「関西パビリオン」なのか。
- 「大阪ならでは」に特化すると、話が狭隘化しローカルのところに行きつく。最新技術を活用し、面白いものを見せたとき、どのように「大阪らしさ」を発揮するのか。
- 大阪の人・コミュニケーション能力の高さなどを発信する企画やコンテンツが必要では。
- 大阪らしいスローガンが必要では。

## ■ パビリオンのコンセプト

- 「大阪健康館」という概念で、人生**100**年時代を迎える中、積極的に生きがいが増える、大阪から日本、世界を幸せにする、元気にするような、「**10歳若返りパビリオン**」のようなものが望ましいのではないかと。
- いのちが輝くという時に、これが「健康」だと言ってしまうと、誰にとって嬉しいのか。「**10歳若返り館**」に若者が来るのか、これは難しいと思う。若者にとって、エンターテインメントのない万博は、半年間で造った突貫工事の博物館のように映りかねない。
- サブテーマの「いのちを繋ぐ」には、異文化理解をしていくとか、新たな技術革新を創出していくとか、そのような大きい意味の理念が隠れていると思う。**近未来的なITとか種Iを用い種々の仕掛けをして、非常に楽しく夢がある参加型のパビリオン、21世紀の後半に向けて、人類の生活をより豊かにして、持続可能性のある社会を築ける契機となるパビリオン**ができればいいのではないかと。
- 例えば、最先端のマンションみたいなものをつくり、夜は宿泊ができ、昼間は展示会場となっているような、**最先端の居住空間であり、展示（提案）会場であるようなパビリオン**なんかは面白いかもしれない。
- アナログ感覚を大事に、**100年後の子どもたちが来ても楽しめる、体験・体感型のパビリオン**がいいのではないかと。
- 大阪ならではの**ものづくり、食文化、笑いでいっぱい**のパビリオンになることを期待している。

## 整理・検討が必要なポイント

- 万博のテーマに関連し、「健康」や「10歳若返り」ということだけであると、若者の参加（来場）は難しい。若者を呼び込むためには、エンターテインメントの要素が必要。
- ITやAIなどの最新技術の活用とアナログ感覚（100年後の子どもが来ても楽しめる）との融合。参加型・体験型のパビリオンにするべき。

## ■パビリオンのコンテンツ

- パビリオンの中に入って、自分の色々な部分の年齢を測定しながら人体の不思議を勉強し、若返りたいところについて、アプリなどで学びながら、自分の行動変容に繋げるようなものがあるのでは。
- 高齢者の健康にウェイトをおき、健康に対する正しい知識の習得であったり、体の正しい動かし方、それらに加え笑いや楽しさを付け加えたものがあるのではないかと。また、健康だけでなく、生きがいとか楽しさ、やりがいを加えるといいと思う。
- 未来型の病院として、例えば、ロボットの遠隔手術の練習や、AIを活用したバーチャルな治療の経験ができるなど、家族で医療を楽しめるようなものができれば、レガシーとしても残していけるのではないかと。
- まずは、イベントを見たいと思わせ、来てみたら「意外とこんなものがある」といって「いのち」などについて触れてもらうような、仕掛けがあればいいのではないかと。
- 「いのち」について、人間だけのものなのか。大阪は50年前の大阪万博のときから、「いのち」について考えてきた。動物や植物などの様々な「いのち」とともに、我々の「いのち」が生かされているという視点が大事。
- 2025年には、おそらく、リアルとサイバーが完全に融合した後の世界がやってくる。リアルとサイバーが融合したときの我々の生命の定義という倫理的な部分を新しくメッセージとして、次のステージが来たというようなインパクトを出せる展示をすれば、次の万博にリレーができるのではないかと。
- リアルとバーチャルな空間が融合した会場にログインして、自分と友達が自由な姿で、ただ、お喋りをする。自動音声翻訳などが発展し、国・人種を超えた新しい世界観をみんな当たり前で持てればカッコいい。
- パビリオンに入る前後で、人の意識が変わるような展示を考えないといけない。

## 整理・検討が必要なポイント

- 健康や医療に関する体験ができる
- リアルとサイバーが融合したインパクトを出す
- 「いのち」について触れる・考える
- 人の意識が変わる

### 吉村知事

- 政府館とは別に、**大阪ならではの、ワクワクして、突き抜けた感のある地元パビリオンを、大阪市・民間の方々と一緒につくっていきたい。**
- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを考慮すれば、**いのち・健康・未来がキーワード。**
- いのち・健康・未来をキーワードに、**多くの方に何度も来たいと思ってもらえる、大阪らしいパビリオンを作り、次の世代にも残していけるようにしたい。**
- 大阪らしく、**様々な枠組みを超え、新たな価値観を生み出す、「いのち」について考える、「いのち」を楽しむ・楽しめるようなパビリオンにしたい。**

### 松井市長

- まさに日本、大阪・関西は、ライフサイエンスなどの素晴らしく新しい研究成果によって、世界中の皆さんを幸せにすることができる。長寿社会において、**一人ひとりを健康にできる機能を強化・維持できるものを、生み出すことができる**と信じている。
- **健康になるということは、人類全ての願いであるので、リアルにしていきたい。**そのためにも、**レガシーとして残す方向を考えなくてはいけない。**



**(参考)**

**第1回懇話会における各委員等の発言要旨**

## 西澤座長

- 「いのちを救う」というのは、健康寿命を伸ばすとか色々な意味を含む。
- 「いのちに力を与える」というのは、A Iとかロボット等を活用しながら、教育あるいはビジネスへの活用等を大いにやっていく。
- そして、「いのちをつなぐ」。これらがキーだと思うが、異文化理解をしていくとか、新たな技術革新を創出していくとか、そういった大きい意味の理念が隠れている。
- 21世紀後半に向けて、人類の生活をより豊かにして、持続可能性のある社会を築いていけるような契機になるパビリオンにしたい。

## 東委員

- リアルとサイバーが完全に融合した後の世界が来るだろう。そうするとかなり四次元的に捉える必要がある。
  - ・故人（亡くなった方）と生きている方の対話（A I 美空ひばりさんの例）
  - ・認知症の方も昔の曲は覚えている。新しいインタラクションが、四次元空間で起こっている。
- サイバーとリアルが融合したときの我々の生命の定義という倫理的な議論も新しいメッセージとして、そういう世界が来たぞと、新しくインパクトを出せるような展示をして、次の万博にリレーしていく。

## 大西委員

- 若い同世代の方たちに知っていただけるよう、まずは、イベントを見るために足を運びたいと思ってもらえる仕掛けが必要。
- バーチャルアイドルという、二次元と三次元をつなぐ新しい取組みもある。
- 新しいアイドルのあり方であったり、エンターテインメントのあり方も、万博を通して、日本の良さとして世界に伝えていけたらいい。



## 佐久間委員

- エンターテインメントがない万博は、若者にとって、半年で造った突貫工事の博物館のように映りかねない。
- パビリオンの一つの案として、ただコミュニケーションをするだけのスペースがあって、そこに入った瞬間に、バーチャル空間に入る。会場で世界中の人が来場できるサイバーフィジカルに同一な空間。
  - ・会場がV Rで配信され、世界中がアクセスできるだけというのはつまらない。
  - ・バーチャルに参加している人とリアルに参加している人の区別がつかない、性別や容姿などの区別・差別、人種も越えて、全く新しい世界、私という個人があり、個人と個人がみんなて出会う新しい空間。
- みんな当たり前にかそういう世界観を持てればかっこいい。

## 澤田委員

- 「大阪ならではの」をどうするのが重要。
  - ・I T技術で面白いものを見せたとき、それは「大阪らしさ」なのか。
  - ・大阪のパビリオンなのか、関西のパビリオンなのか、はっきりさせて議論したほうがいい。
- 展示だけではなく、いかに多くの府民・市民を巻き込むかというポイントも重要。
  - ・体感的にも大事なので、そこに来ていただくためのイベントもすごく重要。
  - ・スペシャルデーなども含めかなりのことができるが、展示・イベント、広報・営業などの運営も含めてすべて一体化したプログラムとして考えないと、展示だけを考えていくと非常に効果の薄いものになる。
- 万博では、未来に対するエネルギーをそれぞれチャージしていく必要がある訳で、未来に向かう祝祭としてのありようを作っていくことが大事。大阪に住んでみたいと思ってくれるようなパビリオンがいい。

## 鈴木委員

- 大阪は「食」というのはなんとなく認識されているが、たこ焼き・お好み焼き止まりというのが大半で、何か置き換えの言葉が明確になっていない状況。
- 大阪に住んでいる方たちの幸福度はすごく高い。人もコミュニケーション力も高いが、それを武器に全然売り出していない。
- 万博には興味ないけれども、食には興味あるという人をいかに引っ張り込めるか、といった視点も必要。

## 巽委員

- 2025年は団塊の世代がちょうど後期高齢に入るタイミング。健康を真剣に自分の事として捉えて考える抜群にいいタイミング。
  - ・高齢者の起爆剤となるような健康寿命の延伸といわれているが、その一手手前の運動習慣の獲得が非常に大事。
  - ・生きがいとか楽しさとかやりがいを加えると、運動も長期の実施につながる。
  - ・最先端のバーチャル参加などに期待。
- 万博終了後にレガシーとして何を残すかということもしっかり議論していきたい。

## 遠山委員

- いかにして健康な生活を長く送れるかが非常に大事。併せて、サポート体制を作っていくことも大事。
  - ・認知症の診断技術として、血液を採るだけですぐに認知症が早期かどうかわかる。外から光を当てるだけで、軽い認知症が治る。という治療が4月からスタートする。こういう形で認知症に対して新しいブレイクスルーを開いていきたい。
- 認知症の介護の環境も大事。薬のデリバリー、住居の仕組み等々、未来型の介護のあり方についても光を当てたい。
- A Y A（あや）世代の病気を持つ若い人たちに対する生殖医療をどうするか。人工授精など。
- 未来型の病院。ロボット、A I、バーチャルな治療など。レガシーとして残せるかも。
- 再生医療も大変重要な課題。

## シン普森委員

- 大阪人はよく「知らんけど」と語尾に使う。私はいいかげんなフレーズじゃなくて「良い加減」の言葉と理解。「おもてなし」と同じような大阪らしいスローガンが必要。
- ウェルネスというテーマが重視されているが、あまりメンタルヘルスに触れていない印象。
- 大阪の良さは人。
- 大阪は、五感で体験するデスティネーションだと肌で感じている。それをどうパビリオンで表現するのが非常に重要。

## 橋爪委員

- イベント・オリエンテッド・ポリシー（堺屋太一さん提唱）を考えてほしい。
- パビリオンに入る前と後で、最初に思っていたことがガラッと変わる、その人の気持ちが刷新する、従来の常識が覆る。そういう多くの人の意識を変えていくためにはユニークなことをしなければならない。
- 大阪独特の多様なものを受入れていく力というのが大阪らしさの根源。
- リアルとバーチャルが本当に融合するのが当たり前になっている中で、逆にほんまにリアルとはなんぞやってことを考えるという視点から「いのち」の多様というのを考えないといけない。
- （シン普森さんが）さっきおっしゃった「おもてなし」みたいな言葉が要る。
  - ・大阪でいうと「おせっかい」。コミュニケーション力。大阪から発することができる価値観というものを展開いただければ。

## 森下委員（ビデオメッセージ）

- 10**歳若返り「大阪健康館」  
人生**100**年時代を迎えて、積極的に生きがいが増えるような、大阪から日本・世界を幸せにする、元気にするプロジェクト（パビリオン）ができるといい。  
〈例〉◇パビリオンの中に入って、自分の様々な年齢を測定  
◇自分が若返りたいところをアプリ等でアドバイス（サプリメントがいいのか、運動がいいのか、食事がいいのか等々）が受けられ、個々人の行動変容につなげる。

### 高橋特別アドバイザー

- 真のインクルーシブ。そういう社会を実現したい。
- テクノロジーの次ではなくて、社会科学的な次の社会。万博はこれを見せる規模と期間としてはちょうど良いのではないか。
- 5年後をターゲットに万博に来る外国人の方たちを治療できるよう準備をしている。  
例えば、今度やる視細胞の移植などは、回復するまでに半年ぐらいかかる。来てもらって、滞在していても退屈しない万博というのをお願いしたい。
- 新しい医療の形を残せるようなところを作っていたらいいと思っている。

### つくろ特別アドバイザー

- 老いも若きも楽しめる
- かっこいい、でも敷居が高くない
- ユーモアはあってもベタにならない
- 外国人にも難しくない仕組み
- ディズニーランドの**It's a small world**のような、「寄り添った感覚」を表現したい。
- 大阪から今発信すべきこと。そこに来て触れたり、感じたり、体験できるような、そんなパビリオン。  
アナログ感覚を大事にしたい。**100**年後の子供たちが来ても楽しめるような体験・体感型。
- 歴史に触れる、グルメに触れる（健康とおいしいの両立）、文化に触れる（未来も感じる～初めてスマホを触った時のような導入で十分～）
- 手前味噌ですが、音楽ありき、ミニステージもあって、現場を紹介するスタッフが定刻になれば歌って踊る、**6ヶ月**限定のグループなどをつくる。
- 最終的にみんな欲張らず、グルメだけに絞るとか、音楽に絞るとか、何かにこだわっただけでも、知恵を持って一丸となれば素晴らしいものを作り上げられる。